

令和6年度 都城市立高城小学校 自己評価書・学校関係者評価書

令和7年2月3日作成

【自己評価及び学校関係者評価の評価方法 4段階 A：期待以上 B：ほぼ期待通り C：やや期待を下回る D：改善を要する】

評価項目	評価指標	具体的な取組	学校評価アンケートの結果(保護者・児童・職員) ・令和6年12月上旬～12月中旬実施 ・回答数 保護者238名 児童384名 教職員22名 ・回答種 A そう思う B どちらかといえばそう思う C どちらかといえばそう思わない D そう思わない E 分からない	学校自己評価			学校関係者評価	
				回答者別	総合評価	評価内容 ○成果 ●課題	評価	評価内容
確かに学力の定着	1 子どもたちが主役の授業づくりと組織的取組	・メンターチームによる主題研究の研究授業をチームで各1回実施する。	※この項目のアンケートはなし。 今年度の主題研究についての振り返りアンケートを後日実施予定。 ・メンターチームでの模範授業、研究授業を計画通りに実施した。	B		<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童用タブレットPCの学習活動における積極的な活用を図ることにより、個別最適な学びを実現するとともに、持ち帰りによる家庭学習での活用につなげることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の授業の様子、児童の授業を受ける様子のどちらも非常に良くなっている。 ・教室の掲示物が工夫されていて、落ち着いた中で授業を行いたいという思いを感じた。 ・読書の推進について良い結果が出ている。デジタル化の時代にアナログ(本)を読書することはとても大切なことだと思う。 ・読書率、素晴らしい。文章問題を解く際に意味が理解できていない児童が多いが、読書率と並行してほしい。 ・メンターチームによる研究会で、先生方の協力が深まることにより、それが児童に良い影響が現れることを更に期待する。 ・プリント(テスト)を配られたら、まず氏名を書くこと。3年生以上は丁寧に漢字で書くことを指導してもらいたい。 ・さまざまな取組による授業改善により、学力向上の成果が現れていると思う。 ・学習内容が分かる回答で、職員の評価が低いが、目標を高く設定されたのだろうか。 ・中学年の目標未達があるが、この年代の要望する本が少ないのではないだろうか。 ・先生方の指導が良いので、児童が楽しく学んでいて、授業態度が全体的に良くなっていると感じた。 ・理解度の低い児童への支援の方法と、その取組の結果を知りたいと思う。 ・わさびの授業の成果が上がっていることがよく分かる。 ・中学年の冊数が減っているのが気になる。絵本をたくさん読ませてほしいと思う。
		・国語・算数の単元テストを平均80点以上とする。	今年度2学期末までの全学級の単元テスト平均点 国語 83.3点 算数 79.2点	B		<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校教職員全員を3つのメンターチームに分け、チームによる授業研究会を全員が1人1回行うこと、初期研修者を含めた職員全体の指導力の向上に資することができた。 		
		・「学習内容が分かる。」と答える児童が80%以上となる。	保護者 A B C D A 23 B 58 C 12 DE 7 A 児童 A B C D A 55 B 35 C 6 DE 5 A 職員 A B C D A 21 B 42 C 32 DE 5 B	B		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習習慣の定着を図る指導により、チャイム1分前の着座、立腰等が定着し、落ち着いた雰囲気で学習に取り組む児童が増えてきている。 		
	2 1人1台端末の効果的な活用	・授業での端末活用を1日1回以上とする。 ・児童が端末を使いたい時に効果的に端末を使えるようにする。 ・家庭学習でのキュビナ活用を推進する。	保護者 A B C D A 29 B 52 C 13 DE 6 A 児童 A B C D A 47 B 33 C 11 DE 8 A 職員 A B C D A 50 B 18 C 14 DE 18 B	B		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「わさびの授業」への授業改善等、学力向上の取組を継続して行った。結果として、単元テストの平均点、CRT結果等に前年度よりも向上が見られる。 ○ 「全校読書の日」を毎週水曜日に設定したこと、貸出冊数に大きな伸びが見られた。 		
		・年間読書目標冊数 低学年80冊 中学年60冊 高学年40冊以上	本校図書室での貸出冊数集計(4/8～12/24) 20,745冊 (R5:17,482冊) 学年部別1人当たりの平均貸出冊数 低学年 65.6冊(R5比+5.4冊) 中学年 48.1冊(R5比-31.8冊) 高学年 89.0冊(R5比+68.1冊) 全学年平均 52.7冊(R5比+45.0冊)	A		<ul style="list-style-type: none"> ● 本校が取り組んでいる学力向上の取組についての保護者に向けた説明が十分ではないため、今後も更に機会を捉えて説明責任を果たしていく必要がある。 		
	3 読書の推進							
豊かな心の育成	1 基本的生活習慣の定着	・「あいさが進んできた」と答える児童・教師が80%以上となる。	保護者 A B C D A 22 B 54 C 18 DE 6 B 児童 A B C D A 50 B 30 C 11 DE 8 A 職員 A B C D A 24 B 71 C 5 DE 0 A	A		<ul style="list-style-type: none"> ○ 高学年児童による朝のあいさつ運動や、計画委員会主催のあいさつ運動、各学年の発達段階に応じたあいさつに関する日常指導等により、学校内外でのあいさつが向上してきている。良くなってきたことを褒めることで、意欲化を図るなど、今後も取組を継続していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「あいさつが進んできた」という思いをもっと表現していくと、児童ももっとよくなると思う。 ・「学校が楽しい」と思える児童が多いのがとてもよい。さらに多くなることを期待する。 ・命を大切にする指導を今後も続けてほしい。 ・児童に「生き抜く力」を身に付けさせる為に、教師、保護者、地域の連携で育てていきたい。 ・6年生の朝ボラを、高城小の良き伝統として繋いでいってほしい。 ・「学校が楽しい」という多くの児童の評価があり、高城小の発展が益々楽しみである。 ・いずれの項目も目標を達成している。今後も取組の継続をお願いしたい。 ・学校が楽しいと感じている児童が多いので、元気よくあいさつできているのではないか。 ・学校が楽しい児童が90%に近付いていることは素晴らしい評価である。 ・いじめについては、児童一人一人でもっと信頼関係を築き、何でも相談できる環境を作ってほしいと思う。
		・「きまりを守ることができた」と答える児童・教師が80%以上となる。	保護者 A B C D A 26 B 58 C 10 DE 7 A 児童 A B C D A 57 B 33 C 4 DE 6 A 職員 A B C D A 14 B 62 C 19 DE 5 B					
	2 生命を大切にする教育の推進	・「心のアンケート」でいじめの解消率100%となる。	保護者 児童 職員			<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な取組により、「学校が楽しい」と答えた児童の割合が昨年度よりも増えている。今後も児童の達成感や充実感に繋がるような実践を続けていく。 		
		・「学校が楽しい」と答える児童が90%以上となる。	保護者 児童 職員			<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的生活習慣や規範意識の確立等について今後も継続して指導していく必要がある。 		

評価項目	評価指標	具体的な取組	学校評価アンケートの結果(保護者・児童・職員) ・令和6年12月上旬～12月中旬実施 ・回答数 保護者238名 児童384名 教職員22名 ・回答種 A そう思う B どちらかといえばそう思う C どちらかといえばそう思わない D そう思わない E 分からない	学校自己評価			学校関係者評価	
				回答者別	総合評価	評価内容 ○成果 ●課題	評価	評価内容
体力の向上	1 食育の充実	・食に関する指導の全学級での完全実施に努める	保護者  児童  職員 	A	A	○ 1学期の水泳、2学期の運動会練習、冬季の持久走練習や縄跳び運動等により、運動量の確保に努めた。また、体力テストD・E判定の児童の割合が1割以上減少した。 R5年度 64人 → R6年度 49人 ○ 栄養教諭による食育指導や、カルピースナックスクールをすべての学級で実施することができた。また、保健指導や健康指導の充実により感染症等に対する対策について習慣化を図ることができた。 ● う歯治療率 56.6% → 61.0%	A	・学校の取組が良い。色々な所にアンテナを張ってよい取り組みを体験させてほしい。 ・食育指導の外部講師の協力は有難い。 ・体力向上についての児童と教師の評価の差が気になる。 ・工夫をこらした指導により十分な成果が得られている。今後も継続をお願いしたい。 ・外部講師の方に来てもらって食育について学んでいるのはとても良いと思った。 ・食育で食の大切さが分かると、児童の意識が大きく変化すると思う。
	2 スクールスポーツプランに基づく体力向上の取組	・体力テストのD・E判定児童を1割減らす。	保護者  児童  職員 	A	A			
	1 学運協を中心とした地域との連携	・地域人材、地域素材を活用した体験活動を年間5回以上実施する。	保護者  児童  職員 	B	A	○ 可能な範囲で地域素材の活用や、外部団体、外部講師等の人材活用などを図り、教育活動に生かすことができた。		
	3 学校からの情報発信	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・学校ホームページをきめ細かに更新する。	保護者  児童  職員 	A	A	○ 各種通信や学校ホームページ等で教育活動の様子を継続して発信することにより、家庭や地域の理解や協力を得ることができた。		・学校運営協議会委員としてさらなる協力を行っていきたい。 ・高城小も学校だよりを地域の回覧板で発信していただけると有難い。 ・外部講師の人材活用等により目標を達成できている。今後も継続をお願いしたい。 ・各種通信で学校での様子や取組などが分かってよかったです。 ・地域との体験活動が、児童の考え方やコミュニケーション力を身に付け、地域の中で育っているという自覚を大切にしてほしいと思う。